

飛躍

TOKAI UNIVERSITY TAKANAWADAI JUNIOR & SENIOR HIGH SCHOOL

HIYAKU

第340号



東海大学附属高輪台高等学校・中等部 学校報

●発行日/2015年2月1日

●発行者/東海大学附属高輪台高等学校・中等部 校長・片桐知己治

「知性と品性、そして感性を」

若き日に汝の思想を培え

Cultivate your thoughts in your early days

若き日に汝の体躯を養え

Nurture your body in your early days

若き日に汝の智能を磨け

Develop your intellect in your early days

若き日に汝の希望を星につなげ

Aim your hopes towards the stars in your early days

TOP*NEWS

ヨーロッパ研修旅行 SSH東京都内指定校合同発表会



ヨーロッパ研修旅行(フレデリクスボー城)



SSH東京都内指定校合同発表会(玉川学園)



バンドフェスティバル グランプリ受賞

2014年度学校運営方針

2014年度の学校運営方針重点目標達成に向けての本校の取り組みを紹介します。

本校の取り組み PART.4

**全教科によるSSH活動への積極的な取り組みと
女子の理工系進学推進の研究を行う。**

**生徒に対する指導全般において、教員間、教科間、学年間、
分掌間等で連携を取り、チームワークを重視し、
組織として生徒指導にあたる。**

SSH(スーパー・サイエンス・ハイスクール)は、文部科学省より指定を受けた学校が、科学技術系人材育成のため、先進的な理数教育を実施するとともに、高大接続の在り方について大学との共同研究や、国際性を育むための取り組みを推進するものです。

本校は、2004年に最初の指定(3年間)を受けて以来、2007年に2期目の継続指定(5年間)、2012年に3期目の継続指定(5年間)を受けてSSH活動に取り組み続けています。継続して指定を受けるためには、常に新たな課題を設定していく必要があります。現在は「国際性を重視したプログラムの改善」、「国際的な科学技術コンテストへの参加」、「地域に広げる科学普及活動の展開」、「企業連携によるキャリア教育の推進」等の課題に取り組んでいます。

科学技術が社会の重要なインフラを支えていくこれからの時代は、理数の専門家であるか否かにかかわらず、科学的リテラシーは市民必須のものとなっていきます。本校のSSH活動には、理数系の教員だけでなく全教科の教員が携わっています。すべての教員の科学的リテラシーを高め、すべての教科で、生徒たちに未来を担う力を育てていきます。

また、生徒指導においても、すべての教員で取り組んでいく体制づくりをしています。

クリスマスツリー点灯式

12月9日、本校中庭において「クリスマスツリー点灯式」が行われました。在校生や高輪キャンパスの大学生、下校途中の小学生等、来場者一同は、青、白の美しい光を眺め、心温まるひと時を共有しました。

全長約6メートルのクリスマスツリーは、大学の高輪キャンパスが行っている「Takanawa共育プロジェクト」に本校生徒会も参加させていただいたことがきっかけとなり、2年連続の装飾となりました。11月11日に大学生と第1回目の打ち合わせを行い、生徒会のクリスマスツリー実行委員長の望月ルカさん(高校2年生)を柱に準備を重ねて、この日を迎えることができました。多くの人を魅了するツリーは16時から21時まで点灯し、12月25日までわれわれをワクワクした気持ちにさせてくれました。

電飾やリボンで飾られたツリーは、華やかなクリスマスシーズンを盛り上げてくれます。次年度もぜひ楽しみにしてください。



クリスマスの飾りを作ってみました



華道同好会作品

ヨーロッパ研修旅行

ヨーロッパ研修で学んだこと

1年3組 浅野 桃佳

研修を通して学んだことは、当たり前のことを当たり前前にこなす難しさです。両親、友達のない環境で、その国独特のご飯を食べ、その国の人とコミュニケーションをとるといふ、普段と違った環境を楽しみ、学ぼうとすることが研修であると思いました。また今回の研修では、なるべく自分の力で行動を起こすという目標を立て、以前海外に行った時よりもコミュニケーション面でも成長できた部分があったと感じました。

そして、研修が始まる時に引率の先生が話して下さった「自分の目で見て感じて、いろいろなものを吸収する」ことのできる機会を持てたことに感謝しています。研修で学んだことを、今後に活かしていくことが私の課題だと思いました。



東海大学ヨーロッパ学術センター

感動・感激・感謝の研修旅行

3年6組 田中 友梨

ヨーロッパ研修で訪れた4カ国は、自分が想像していた以上に素晴らしかったです。各国の持つ歴史や文化、芸術性の高い建物、内装、街並み、自然の風景など全てに感嘆の声があがり、感動しました。クリスマスシーズンということで、通常の時期よりもイルミネーションで飾られた光の祭典でも気分を高揚させたのかもしれない。

憧れだったフランスは、代表的な有名観光地を回り、どこも素晴らしかった中で凱旋門の壮大さと迫力は圧巻でした。今回初めて行われた「セーヌ河ディナークルーズ」は、船上からエッフェル塔をのぞめる夕食で、夜景が素敵でとてもロマンチックでした。

この研修は、付属生との交流も楽しく、自分の人生において貴重な経験となりました。異国に行かなければ感じなかった日本の良さ、日本人であることの誇りも感じる事ができました。本当にたくさんの「ありがとう」が詰まった充実の研修旅行でした。



シャンゼリゼ通り

平成26年度 東京都高等学校文化祭軽音楽部門中央大会 第7回 東京都高等学校対抗バンドフェスティバル グランプリ受賞

皆さんへの感謝

バンドリーダー 2年4組 都地 果穂

グランプリをいただきました。軽音楽部のDARARAです。演奏が始まり、結果発表で名前を呼ばれるまでの時間は、信じられないほどに短く感じました。表彰で名前を呼ばれたときは全く実感が湧かず、夢ではないかとまで思いました。翌日、たくさんの方に「グランプリおめでとう」と声をかけてもらえたことで、受賞をやっと実感することができました。このような大きな賞をいただけたのは軽音楽部の仲間たち、顧問の先生方をはじめ、応援して下さった家族や友達、数え切れないほど多くの方々のご理解とご支援のおかげです。本当にありがとうございました。また、これを機に軽音楽部に興味を持っていただけたらうれしいと思います。今後も校内ライブなどのイベントを企画しております。ぜひ遊びに来てください。これからも軽音楽部一同、皆さんにまた良い結果をお伝えできるように頑張ります。応援よろしくお願ひします。



学年だより 中 1

キャリア教育

12月5日(金)の5・6時限目、キャリア教育の一環として富士通(株)の方をお迎えし、「環境に優しいパソコン」をテーマにした授業を行っていただきました。前半は3R(Reduce Reuse Recycle)について勉強し、後半は富士通のパソコンを分解しながら、それぞれの部品が3Rの何を意識して作られているのかについて学びました。パソコンを分解することは生徒たちにとって初めての経験で、しかも、パソコン部品が3Rを意識して製造されていることに驚いている生徒たちが多数でした。生徒たちの感想を掲載します。

1つ1つの欠かせない物

A組 佐藤 俊幸

僕がキャリア教育のパソコン分解を通して学んだことは、モノは1つ1つが欠かせない、ということです。

ドライバーを使ってパソコンの中を開けていくと、たくさんの部品やメモリー、DVDプレイヤーなどがあり、ギョウギョウ詰めになっていました。僕はそれを見て、クラスのようなものだと思います。例えば、小さな部品でも同じような形は存在せず、1人ひとりの個性が出ているように思いました。他にも、その中心的な部品が、クラスの中ではリーダーのような存在に思いました。この中では、CPUがなかったりするとパソコンへのダウンロードができなかったり、冷却ファンがないとパソコンが発火状態になってしまい、とても危険なことになりかねません。

このことから、僕はパソコンも人間も必ず必要な部品や人があるのだということを知り、他人の個性をもっと尊重できるようになりたいと思いました。

3Rと地球の関係

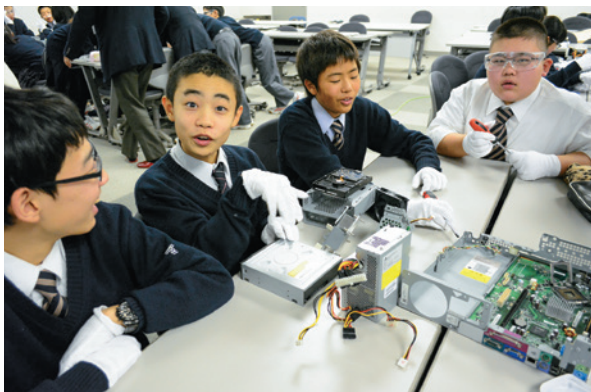
B組 小川 真悟

キャリア教育では富士通の職員の方が、わざわざ学校に来てくださり3Rの話をしてくださいました。3Rのうちリサイクルは知っていたけど、リデュースとリユースというものがあるなんて知らなかったです。リデュースやリユースやリサイクルは、今の地球にすごく大事なものだと思います。今僕たちは、すごくムダ使いをしていると思います。僕は学校に水筒ではなく、ペットボトルを持ってきます。今回の話を聞いて、ペットボトルは中身を飲んだら捨ててしまうので、もったいないと思うようになりました。だから僕は今度から、できるだけ水筒を持ってこようと思いました。反対に、僕が少し協力していると思ったのはレジ袋です。レジ袋はできるだけもらわないようにしています。

今回のキャリア教育の話は僕にとって知らないことばかりでした。僕たちは地球について知らなすぎるなと思いました。僕たちが地球のためにできることを知ることができてよかったです。



講師紹介



パソコンを分解中

学年だより 中2

キャリア教育 ～積水化学工業株式会社～ 校外活動 ～科学技術館～

12月2日(火)、3日(水)の2日間にわたり後期中間試験が実施されました。試験翌日は、午前中にアリーナでスポーツ大会が開催され、午後に積水化学工業㈱から講師をお招きしてのキャリア教育を受講しました。このような盛りだくさんの1日の翌日となる5日(金)には、今年度3回目の校外活動が実施され、東京九段下にある「科学技術館」を訪問しました。今回の校外活動は前期の日本科学未来館に引き続き「科学」をテーマにしており、生徒たちはさまざまな体験を通じて知的な刺激を受けたようです。

今回はキャリア教育と校外活動の様子をご報告いたします。

科学の力

A組 上野 和叶

違う接着剤を混ぜ合わせると粘着力は変わるのかという実験を行いました。時折、積水化学の方に声をかけてもらったり、手伝ってもらったりして、たくさんの配合で接着剤の強度の実験をしました。

積水化学の方によると、違う接着剤を混ぜ合わせた時に一定の強度レベルがあり、その値を下回っても上回っても粘着力は低くなるらしいです。積水化学さんでも今回私たちがやっているような実験を何百回も試し改善をし、新しい商品を生み出しているそうです。

今回のキャリア教育で積水化学の方の話や実験を経て、今一緒に勉強をしている友達の中から科学の道に進み、新しい成果や商品を生み出すために研究し、その商品が世に出回り、私が使っていると考えると、とても面白いし、みんなそれぞれの将来が楽しみに思えました。

科学を体験

B組 石村 玲奈

私は理科の中でも科学は苦手な分野なので、科学技術館に行くのはあまり気が乗りませんでした。しかし、校外学習当日になって科学技術館の中をしばらく見学すると、その考えは変わりました。

科学といっても、錯覚を利用した展示物や、音を使った展示物など、私の好きな物がたくさんありました。今ではほとんど見ることのできない、昔の自動車や自転車なども展示してありました。全体的に体験型の展示が多かったので、友達といろいろ試していたらあっという間に時間が過ぎていきました。

私が最初に想像していたよりも、はるかに楽しい施設だったので、校外学習で行くことができよかったです。今回見学しきれなかったエリアもあるので、また今度行ってみたいと思いました。



A組

さまざまな接着剤を
配合中



B組

ピタゴラスの定理を
パズルで体験

積水化学工業の方が丁寧に
説明してくれました



皆苦戦しています



学年だより 中3

～とうとう…最後になりました～ スポーツ大会

12月4日(木)、スポーツ大会が行われました。大変名残惜しい気持ちはありますが、クラス単位で行われる中等部の行事は最後となってしまいました。そのためかだいぶ白熱した試合が行われていました。大きな声を張り上げて各クラスが一生懸命応援し、戦っている姿がとても印象的でした。

A組 応援賞

最高の思い出

A組 上田 悠

目標はB組に勝つことでした。しかし、一番は応援賞がとりたと思っていました。勿論勝負に勝ちたいという気持ちはあったけれど、何より楽しくできたらいと思っていました。

バレーボールは男子の最後のチームが逆転してくれたので、勝つことができるともうれしかったです。バスケットはみんなが動いて頑張ったけれど、負けてしまいました。最後の種目の綱引きは女子は勝てましたが、あとは負けてしまいました。みんなで力を合わせて頑張ったのに勝てなくて本当に悔しかったです。

総合的にはB組に負けてしまったけど、応援賞をとることができました。みんなで楽しくできたのでよかったです。最後のスポーツ大会で最高の思い出を作ることができました。

たくさんの声援

A組 外山 宗亮

今回のスポーツ大会は中等部最後なので、みんなで優勝と応援賞を狙って頑張りました。

最初にバレーボールをやりました。僕たちは体育の授業で習っているので、それを生かせるようにやりました。最後のチームに回ってきた時点で10点差をつけられていたので、何とんでも逆転しようと気合を入れました。結果その点差をひっくり返し、逆転勝利をしました。続いてバスケットボールをやりました。僕たちのチームは1点も得点ができず、A組全体でも負けてしまいました。しかし、みんなからたくさんの声援をもらったのでうれしかったです。最後の綱引きでは女子の健闘むなしく、男子と全体では負けてしまいました。

結果は優勝を逃してしまいましたが、応援賞をとることができました。高校生になってもスポーツ大会があるので、クラスに貢献できるように頑張りたいです。

B組 優勝

初優勝

B組 佐藤 光菜

今回のスポーツ大会は最後のスポーツ行事になりました。B組はずっとA組に負けていたので、あきらめてしまっている雰囲気もありました。

最初のバレーボールでは、女子は勝っていましたが、男子で負けてしまいました。しかし女子は誰一人、責めることなく男子に励ましの言葉をかけていました。バスケットボールでは、男子の活躍もあり、勝つことができました。そして最後は特典がとても大きい綱引きです。女子は負けてしまいましたが、男子は勝ちました。男女で綱を引いたときはとても接戦で長く続きました。結果はB組が勝ち、念願の優勝をいただくことができました。勝てたのは、どんな時でも応援していたことと、試合を進めていく中で、みんなが勝ちたいという気持ちが強くなったからだと思います。最後の最後で優勝をいただいたのは、とても良い思い出になったと思います。

最後のスポーツ大会

B組 亀田 和

今回は中等部最後のスポーツ大会でした。種目はバレー、バスケット、綱引きでした。残り少ない行事なので、クラスが一つになって優勝したいと思っていました。クラスメートのプレーを見て、一生懸命応援している姿がとてもほほえましく思えました。バレーは負けてしまいましたが、バスケットでは勝つことができうれしかったです。残るは綱引き。勝つことができればB組が優勝できると思い、クラスが一気に盛り上がりました。1、2年生がやっているときも必死に応援をしました。女子が敗れても次につなげられるように盛り上げました。最高のムードになりました。男子、そしてクラス合同で勝利し、優勝することができました。本当にうれしかったです。残り少ないこの時期に大きな思い出を作ることができうれしくもあり、勝つという喜びも味わえて最高です。卒業まで頑張りたいです。



学年だより 高1

体育祭举行

10月17日(金)に、第13回中等部・高校合同体育祭が総合グラウンドで行われました。当日は天候に恵まれて、気持ちのいい秋晴れの下、生徒諸君は一生懸命各種目に汗を流していました。

体育祭を終えて

5組 小林 咲楽

天気に恵まれず、予定通りに行うことができなかった体育祭ですが、17日は最高の快晴でした。とても楽しみだった体育祭がやってきてワクワクしていましたが、結果的には、黄組は6位に終わってしまいました。

私が出場した種目のなかで一番心に残っているのは、大玉おくりです。大玉おくりはこの体育祭の種目のなかで、唯一3色が一緒に協力してひとつのことをやるという競技でした。皆が積極的に大玉に触りに行って、全員が笑顔でとても楽しそうでした。

体育祭は中等部・高校の全学年が関わることのできるなかなかない機会で、クラスや自分の色を精いっぱい応援できます。だからこそ、団結し合うことができるのです。この体育祭で培った団結力を、これからの学校生活に生かしていきたいと思いました。

高校生初の体育祭

5組 東條 充希

私にとって、高校初の体育祭はとても印象に残る思い出になりました。特に印象に残った種目は部活動対抗リレーです。各部で選ばれた人たちがユニフォームに着替え、普通にリレーをするかと思いましたが、ダンス部はパフォーマンスをしながら、剣道部は互いに打ち込みをしながら、トラックを回っていたのが印象に残っています。私も来年こそは出場できるよう、部活動を頑張っていこうと思いました。

今回、私が出場した種目は大玉おくりと色別対抗リレーでした。大玉おくりでは、中等部生と一緒に、合計で100人超で行うことに、最初は驚きを隠せずいました。徐々に大玉が近づいてきて、ついに自分のところに来ましたが、結局一度も触ることなく終わってしまい悔しかったです。リレーでは大玉おくりの悔しさを払うため、第一走者として走りましたが、皆に抜かされ足を引っ張りました。

今年は十分に活躍できなかったのですが、来年こそ活躍できるよう頑張りたいです。



ムカデ競走より



やはり昼食の方が…



肩組競走より



ローハイドより



ローハイドより



学年別対抗リレーより

学年だより 高2

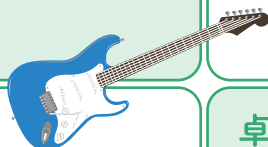
新部長からのメッセージ②

ほとんどの部活動・同好会では、高校3年生が引退し、高校2年生が部長となり、中心学年として頑張って活動しています。今月も各部長・会長の意気込みや目標をお届けしていきます。

剣道部

2組 レブランク 玲央

新しく剣道部の部長となりました、レブランク玲央です。剣道部の目標は、関東大会出場です。そのためには東京都でベスト8に入らねばなりません。昨期の関東予選では、あと一步、まさにあと一勝のところ関東大会出場を逃してしまいました。その悔しさを忘れずに、剣道場の部旗にも掲げられている「人事を尽くして天命を待つ」の言葉のもと、日々の稽古に励んでいきたいと思ひます。



柔道部

2組 森田 祥平

今年度、柔道部主将になりました森田祥平です。柔道部は、最後まで決してあきらめない、そして皆から応援されるチームを目指しています。あきらめないチームになるためには、一日一日の練習への姿勢、応援されるチームになるためには、普段の生活面での姿勢を考えて取り組む必要があります。また主将としての目標は、これらの取り組みを率先して行い、東京都で優勝することです。



女子バスケットボール部

6組 宇留島 萌

私は全員から頼られる「キャプテンのようなプレイヤーになりたい」と言われるキャプテンになります。今の私は未熟ですが、この冬を乗り越えて春に向けて、私自身もチームも成長できるように支え合って、目標に向かって取り組みます。いつも私たちを応援していただき、ありがとうございます。これからも応援されるチームになるために、感謝の気持ちを忘れず、たくさんの方に挑戦していきます。

軽音楽部

6組 木村 日菜子

私たちは引退した3年生から「音楽を伝える大切さ」というものを学び、受け継ぎました。それを無駄には絶対にしたくないと部員一同が思っているはず。部員の熱意に応えられる部長に必ずなり、よりたくさんの方々に軽音楽部を知ってもらえる機会を作っていくと考えています。ただ爆音を出すのが軽音楽部ではないと証明していくためにも、自分たちの伝えたい音楽を大会やライブ等で魅せていけたらと思ひます。

卓球部

6組 出村 知季

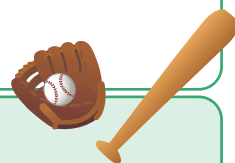
私たちの部活動は、「関東大会出場」という目標に向かって日々練習しています。そのためには、部長として皆を引っ張っていき、全員がその目標に向かっていけるように努力していこうと思ひています。この目標は簡単ではありませんが、決して不可能ではないと思ひています。また、毎日練習ができるのも家族や先生の協力があるからです。感謝の気持ちを忘れずに目標に向かって頑張ります。



硬式テニス部

5組 菊池 奨

硬式テニス部部長になりました菊池奨です。最初部長になった時は、部活動自体まとまりがあまりありませんでした。しかし今は、部員一人ひとりが目標を持っていて、良い雰囲気を取り組んでいます。そして最後の大会で良い結果を残すこと、これが来年の抱負です。そのために、自分たちが今できることに対して一生懸命に取り組み、悔いの残らない年にします。



華道同好会

8組 野口 未来

美しいものにたくさん触れることで、自分を高めていけるような活動を目指しています。活動は「楽しく真剣に」を心がけ、卒業までにたくさんの型を身につけたいと思ひます。華道の楽しさをたくさんの人と分かち合うためにも、新しい仲間を増やしたいと思ひています。



サッカー部

1組 武市 健太

新部長になりました。今年のサッカー部の目標は全国優勝です。この目標は部員全員が本気で目指しています。そのためには、日々の練習を今までとは変えていかないとはいけません。今年度のサッカー部は学年関係なく仲がいいところが特徴なので、それを良い面でも出していききたいです。生活態度・勉強面も怠らさずしっかりやり全国優勝したいです。応援よろしくお願ひします。

野球部

1組 田中 翔栄

私には大切にしている言葉があります。「夢は正夢」です。夢は見るとは、叶えるものだと私は思ひます。目標としている甲子園に向かってチーム一丸となり、日々の練習を頑張っています。甲子園に出場するために、一人ひとりが自分の考えを持って自主性を高め、全員が同じ方向に向かって団結をすることが自信につながります。「甲子園出場」と胸を張って言えるチームにしていきたいことが私の務めだと思ひています。

学年だより 高3

特別講座(12/9~1/31)

3年生は卒業試験終了後、進学先に応じて編成された新しいクラス(9組を除く)でカリキュラムの枠を越えた専門的な内容を学習する「特別講座」が行われました。社会の第一線で活躍されているの方々による出張授業や施設訪問などもあり、普段とは一味違う学びを体験することができました。



「マイナビ進学」編集長
武村勇二氏による講演
(全クラス)

- 今回の話を聞いて、就職にはいろいろな道があることを知りました。将来の夢について、もう一度考え直したいと思います。(田嶋 晃)
- 視野を広げることの大切さを学ぶことができた有意義な時間を、生徒とともに過ごさせていただきました。(教務部・大塚一磨)



ハーゲンダッツジャパン(株)
本社(目黒区)にて記念撮影
(新4組)

- 実際に訪問することで、企業努力を感じることができました。バナナアイスもいただいて、とてもおいしかったです。(浅沼翔子)
- 職場を訪問させていただき、会社の雰囲気を感じることができました。この貴重な経験を今後に生かしていきたいです。(教務部・渡邊 聡)



元客室乗務員・水元澄子氏を
お迎えしての「マナー講座」
(全クラス)

- 挨拶やお辞儀の仕方は将来のためになることなので、講座を受けることができてよかったです。(石井惲大)
- 社会人として最低限のマナーである挨拶の意味について、改めて学ぶことができました。この場を借りまして、講師の水元先生に厚く御礼申し上げます。(学年主任・野崎和夫)



新聞紙アート制作を通して
「協働」を学ぶ
(新1~8組、写真は新6組)

- 幼稚園や小学校の頃に戻ったような気分で、気付いたらみんな仲良くなっていました。(原 里紗)
- 高校卒業後も、社会で求められる「答えが一つではない問題を解決する力」を磨いてほしいと願っています。(授業担任・野口大輔)



国立スポーツ科学センターを訪ねて
(新5組)

- 選手の活躍を陰で支えているサポーターの存在を知り、尊敬と憧れを抱くようになりました。(影山乃依)
- 7億円のボート実験場や低酸素状態になる宿泊室などを見学し、皆大興奮でした。オリンピック選手と同じトランポリンで跳べたことは良い経験になるでしょう。(教務部・数馬大介)



経済界のトップが集うソサエティー
(一社)ディレクトフォースの出前授業
(新1~8組、写真は新2組)

- 視点を広げていくマインドマップの授業は自分にとって新鮮で、時間が短く感じられました。(舟田勇介)
- グループで答えを出し合い、全員の前で発表することで、問題を総括的にとらえるきっかけになったのではないかと思います。(授業担任・関 龍太郎)

(株)キャリアコンサルティング 高橋弘一氏(本校卒業生)から高校生へのメッセージ

結果は「出す」ものではありません。「出る」ものです。「因果応報」という言葉の通り、「結果」には「原因」があります。太っている人は、「たくさん食べている」から太ります。成績の良い人は「勉強に時間を使った」から好成绩なのです。

先を見据えつつ、目の前のことを地道に頑張ってください。卒業生として応援しております!

新8組でのワークショップの様子-中央奥が高橋氏



その他の連携・訪問先(順不同):

外務省国際協力局、カシオ計算機(株)、東京弁護士会、(特非)企業教育研究会、(株)ソニー・ミュージックエンタテインメント、日本航空(株)、ワイス・アスリート・サポート、東京国立博物館、(株)東京証券取引所、(株)JTBコーポレートセールス、東京理科大学近代科学資料館、(株)東京放送ホールディングス、(一財)日本原子力文化財団、(株)朝日新聞社、(一社)電子情報技術産業協会、大日本住友製薬(株)、(株)ミリアルリゾートホテルズ、リーフラス(株)、ソニー生命保険(株)、東海大学情報通信学部情報メディア学科

SSH活動報告

3年SSHクラスは、「課題研究」という授業を行ってきました。自分たちで決めたテーマで実験・研究をし、その成果をパワーポイントやポスターにまとめました。そして、外部のいろいろな発表会で発表をしました。英語で発表したり、大勢の人の前で発表したりとSSH活動でしかできないことを、たくさん経験してきました。この授業を通して、全員の成長した姿を見ることができました。

課題研究を終えて

3年9組 西脇 瑛人

課題研究という貴重な経験を得ることで、実験の知識や基本的な注意事項、そして発表や論文作成のノウハウを学ぶことができました。これらは実際に経験しないと、学ぶことができないものでした。個人、あるいはグループで研究テーマを決め、生徒主体で研究を行いました。そしてその研究成果を発表し、論文にまとめました。授業で行う実験とは違い、実験材料や実験計画を自分で調べて決めることができ非常に自由度が高いです。しかし、いざ研究テーマを決めて始めても経験のない自分たちが立てた計画なので、不測の事態に陥ることが多くありました。こういった経験をすることで問題への対応の仕方を学ぶことができたと思います。課題研究を行ったことで、大学での卒業研究の予行練習になったと思います。このように普通の高校生ではできないような経験を得ることができ、とてもよかったです。この授業で学んだことを、大学や社会で役立てていきたいと思っています。

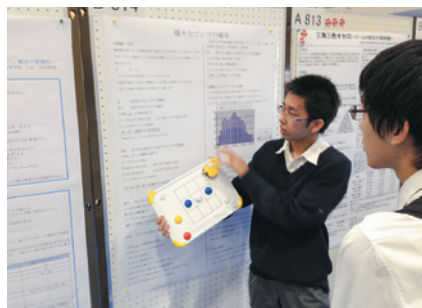


高校化学グランドコンテストでの発表

今後につなげられること

3年9組 岡野 克海

私は課題研究を通して、今後の自分のためになることを経験できたと思っています。私の研究は、生き物を用いたものでした。実験でのミスが重なり、さらに、実験で用いる生き物の管理が甘く、実験の進行状況は厳しいものでした。そのため、実験結果が不十分で、発表や論文では内容が薄くなってしまいました。課題研究を終え、今振り返ってみると、さまざまな面で自分に足らなかったと思います。回避できた失敗が多かったと思います。しかし、この時の私はさまざまな焦りからそれができませんでした。失敗の原因を振り返ることをしていませんでした。失敗を振り返ることで自分自身を見直すこともできると思います。高校を卒業すれば、自分に何が足りないのかなどを自分自身で考えなければならなくなります。そのために必要なことを経験できました。この経験を今後につなげていきたいです。



たくさん発表しました

2014年度 3年課題研究 研究内容一覧

- 物理**
- 紙製パラボラアンテナの製作 田嶋晃、庄野嘉笑
- ブーメランの原理と軌道予測 松本卓巳
- 風によって発生する共振について 赤堀陽介、阿部泰己
- 風洞を使った流線の可視化 堀野玲於、柳澤優吏
- 防音効果 手塚梨紗、浅山和輝
- 気象条件による水滴の大きさの変化～雨粒の測定方法の開発～ 松井航平
- Y系超伝導体の作製と特性を用いた研究 小島寛航、友成宏之
- 数学**
- 数学オリンピックへの挑戦 岡田瑠生
- 数学オリンピックの問題にチャレンジ～代数学からのアプローチ～ 岡部魁
- 様々なビンゴの確率 吉越隼
- 素数とABC予想 増田憲
- 曲の特徴から作曲家は特定できるのか 堀川翔平
- グラフィート～色々な関数を学ぶと共に身近な建築物を関数で表現してみる～ 飯田隆嗣、伊東慎一郎

- 化学**
- おいしい煮物を化学してみた 庄司輝、平野琢登、古澤純
- どの手作りセッケンが市販のセッケンに1番近いか 渡辺麻衣、梅畑光之介、小野光
- 生物**
- ホンヤドカリの行動実験 和久井俊
- 金魚の行動と音の関係性 遠藤功喜
- えさの有無による白血球数の増減 岡野克海
- アフリカツメガエルの表皮再生について 吉田響、西脇瑛人
- 栄養条件の違いによるコウジカビの増殖率変化 馬場言子
- 与える水の量の違いによるハツカ大根の成長の変化 小林真衣、國武正太、中村奎斗
- ゼブラフィッシュの成長と餌の関係 菅原楓、芦野光祐
- ミドリムシの培養と音の関係 佐野友昭
- 情報**
- 脳波を利用したアプリケーション 大木章裕、桑田寛規、鈴木陽向

TOKAI キャンパスメッセージ

法律学科では何を学ぶの？



東海大学法学部法律学科主任 高田 映

法学部ないし法律学科は法を専門として学ぶ場ですが、法というと、刑法、民法、商法、憲法などを思い浮かべる人が多いと思います。このどれにも条文があり、その内容を覚えていくことが法を学ぶことだと考える人は少なくありません。「六法に出てくる法律の条文を全部覚えなければならぬのですか」といった質問を受けることもあります。確かに覚えてしまわなければならない条文はありますが、しかし、法を学ぶことの本質は条文を覚えることではありません。それでは何なのでしょう。

それは、私のみるところでは、自分の考えや意見を相対視することができ、そのうえで説得力のある意見を提示する力を養うことにあります。たとえば、交通事故の被害者が加害者に賠償を払ってもらえるかといった例でみれば、お互いの中で納得できる解決がはかられれば一件落着ですが、そうならなければ裁判を起こすこととなります。どちら側にもそれぞれ言い分があるのは当然でしょうが、人は、当事者ならずとも、「△△なのだから〇〇の方が悪いのは当然だ」とばかりに直感的な判断をしまいがちです。しかし、裁判は法を判断基準として主張が認められるかどうかを判断していくものです（よね）。裁判官とて「これは請求が認め

られるべきだ」と直感的に思うかもしれませんが、それだけで判決を出すわけにはいきません。条文で書かれていることを出発点とし、それがどのように運用されてきたのかも考えたうえで判断基準としての法の内容を確認し、判決を出さなければならぬのです。

これは、法という自分とは違うものを基準として判断しなければならぬことにすることで、自分の直感的な判断を自覚的に相対視していく作業です。こうした作業には、気まぐれでまちまち（ゆえに公平とはいえない）結果になることを防ぐという利点もあります。さらに、気の付きにくいことですが、法は、実は決して杓子定規に適用されているわけではなく、解釈を通じて条文の意味を明らかにしなければ適用できないことも少なからず生じます。そのため、その運用は、それは法にかかわるものの叡智の積み重ねを示すものでもあり、創造力を試されるものでもあります。

法を学ぶことはこうした裁判官のような判断様式を身につけていくということです。また、法の運用に見られる叡智の積み重ねを学ぶということでもあります。自分の考え以外の考え方に目を向け自分の考

えを一回相対視することで、より説得力のある意見を形成していく力をつけていくということです。法を学んだ人は将来的に必ずしも法の専門家になるわけではなく、卒業後の進路はさまざまですが、こうした力は社会のさまざまな場面で求められています。

卒論はないけど卒業研究

法学部には卒論は制度としてありません。しかし、3、4年生の多くは専門分野を決めてゼミ（演習）に所属し、多くのゼミでは、最後に卒業研究を作成することにしています。提出された論文はゼミごとに製本され、卒業式のときにゼミの教員から手渡されます。要求水準の高いゼミもあり大変な作業ですが、4年間法学部で学んだことの集大成を一つの作品として残せたことは、多くの学生に良い思い出となり、また自信になっているようです。



卒業研究論文

お知らせ

中等部3年 ニュージーランド海外英語研修旅行

日程 2月11日(水)～20日(金)

オークランドで8泊のホームステイを行い、昼間はフィールドワークを行い、その成果を英語でまとめます。
英語力をさらに向上させるための英語研修のほかに、
現地校訪問では現地の学校で授業に参加し、牧場では羊毛刈ショーを見学します。
十分に準備をして素晴らしい思い出を作ってください。

基礎力判定テスト 高1、高2

■ **日程 2月19日(木)** ■ **試験科目 国語・地歴公民・数学・理科・英語**

高校生として身につけておく必要のある基礎学力のチェックです。
これまでの学園テスト、外部テスト、中間・期末テストを再度見直して復習を!!

行事予定

February **2**月

March **3**月

- 1日(日) 中等部第1回入学試験
- 2日(月) 中等部第1回入学試験合否発表 生徒自宅学習日
- 3日(火) 中等部第2回入学試験 生徒自宅学習日
- 4日(水) 中等部第2回入学試験合否発表
- 5日(木) 中等部第3回入学試験 生徒自宅学習日
- 6日(金) 中等部第3回入学試験合否発表 答案返却日(中3)
- 7日(土) 朝礼[正制服着用] 45分短縮授業
- 10日(火) 高校一般入学試験 生徒自宅学習日
- 11日(水) **建国記念の日** 高校一般入学試験合否発表
ニュージーランド海外英語研修(中3、～20日)
- 15日(日) 新1年制服採寸・教材販売(中等部・高校推薦)
- 17日(火) 校医相談日
- 18日(水) 専門医によるカウンセリング
- 19日(木) 基礎力判定テスト②(高1・2、5教科)
- 21日(土) 振替休日(中3)
- 22日(日) 中等部新入生・保護者登校日(10:00～)
新1年制服採寸・教材販売(付属一般)
- 23日(月) 登校日(高3) 振替休日(中3)
- 28日(土) 3年生を送る会 高輪会入会式(高3) 短縮授業

- 1日(日) 中等部第6回・高校第66回卒業証書授与式
- 2日(月) **振替休日**(生徒自宅学習日)
- 6日(金) 高校後期期末試験(～10日)
- 7日(土) 中等部後期期末試験(～10日)
新1年制服採寸・教材販売(高校延納)
- 11日(水) 生徒自宅学習日
- 12日(木) 答案返却日 教科書販売(新中3、新高3)
- 13日(金) 生徒自宅学習日
- 14日(土) 付属高校生のための東海大学オープンキャンパス(高1)
自宅学習日(中等部、高2)
- 16日(月) 生徒自宅学習日
- 17日(火) 生徒自宅学習日
- 18日(水) 修了式・離任式 教科書販売(新中2、新高2)
- 21日(土) **春分の日**
- 23日(月) 新1年クラス分け試験
- 24日(火) 中等部希望者講習(～28日)
高校基礎力判定テスト結果補習(～28日)
- 28日(土) 後援会委員総会

クリスマスツリー点灯式



編集後記

月日の経つのは早いものでもう2月。伝統的な習慣にも触れることができるお正月には、今年も自分を奮い立たせる誓いを決め、一つ歳をとりながらも気合を入れてスタートした。世間では受験の真ただ中。春への準備が着々と進んでいる。“春は名のみ風の寒さ・・・”と早春賦の歌詞が思い浮かぶが、暦の上ではもう春。節分には、「福は内、鬼は外」、豆をまいて、心の中や家の中に潜んでいる鬼を追い出し、新しい気持ちで春が迎えられたいものだ。(ほ)

東海大学付属高輪台高等学校・中等部

TEL.03(3448)4011 FAX.03(3448)4020 ホームページ: <http://www.takanawadai.tokai.ed.jp/>